

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475400966
法人名	株式会社 ウェル
事業所名	グループホーム なんてん長嶺荘
所在地 (電話番号)	仙台市太白区長嶺8-10 (電話) 022-748-1622

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 2 月 17 日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48000~65000(円)	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(家賃の2か月分) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	73 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林内科医院、小野寺歯科医院、仙台赤十字病院、仙台往診クリニック
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中に位置した2ユニットのホームである。開設から現在まで4件の終末期の看取りを経験し家族から感謝されている。「看取り介護の指針」「看取り介護の指針に沿ったインフォームドコンセント」を作成し、入所する時点で終末期のことを念頭に置いた話し合いを行っている。地域との交流に関してはホーム便りを町内会に回覧したり、町内会の一員として奉仕活動に協力している。町内会館で行われる介護予防の体操教室、お茶会、雑巾縫いに参加している。ボランティアとして餅つき大会、フラダンス、ハーモニカ演奏に来訪される。また、近くの向山幼稚園に出向き昼食を一緒に摂っている。ケアに関しても理念に沿ってゆったり、楽しく、寄り添ってをモットーに介護をしており、入居者の表情にも穏やかさが感じられた。

ho-ha

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>要改善点として地域密着型サービスとしての理念があげられていたが職員全員で検討し「地域と共に」という理念を追加した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員に自己評価票を渡し書いてもらい、それをそれぞれのユニット長がチェックしたものを管理者がまとめた。その結果職員のケアの質の向上について意識が高まってきたと管理者は感じている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは町内会役員、民生委員、家族代表、利用者、地域包括支援センター所長、管理者、両ユニット長で2ヶ月に1回開催している。議題は状況報告、退職者報告、事故報告、各ユニットからの活動報告などで双方向的な会議になっている。家族代表から長嶺荘のシンボルがほしいとの意見が出され、町内会より丸太をもらい製作中である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月発行の「なんてん便り」は写真が多く親しみやすい。面会時の家族との話し合いで報告や意見の吸い上げが行われている。苦情処理に関しては行政やホームの窓口はあるが第三者委員が入っていないので、運営推進会議のメンバーに相談するなどして重要事項説明書に明記していただきたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム便りを町内会に回覧したり、町内会の一員として奉仕活動に協力している。町内会館で行われる忘年会、介護予防の体操教室、お茶会、雑巾縫いに参加したり、ボランティアとして餅つき大会、フラダンス、ハーモニカ演奏に来てくれる。今後、小、中学生の職場体験を受け入れたいと考えている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念である「ゆったり、楽しく、寄り添って」に地域交流を推進すべく「地域と共に」という理念を追加し地域との交流を深めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践に活かしている。申し送りやケアプラン作りの時に理念から外れないようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム便りを町内会に回覧したり、町内会の一員として奉仕活動に協力している。町内会館で行われる忘年会、介護予防の体操教室、お茶会、雑巾縫いに参加している。ボランティアとして餅つき大会、フラダンス、ハーモニカ演奏来訪される。今後小、中学生の職場体験を受け入れたいと考えている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の実施にあたりすべての職員が自己評価に取り組んでいる。その結果職員のケアの質の向上について意識が高まってきたと管理者は感じている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており双方向的な会議になっている。評価機関からの評価結果も報告しその改善策についても話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの所長が運営推進会議のメンバーに就任しており、相談、意見、連絡などを行いサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪したときに声をかけ、必ず入居者の状況を伝えると共に今後のあり方について話し合っている。すべての家族に対して毎月1回は手紙で入居者の状況を伝え意見や要望を聞いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や苦情を手紙や来訪時に聞いている。苦情処理に関しては行政やホームの窓口はあるが第三者委員が委嘱されていない。	○	運営推進会議のメンバーに相談するなどして委嘱し、重要事項説明書に明記し、家族にも説明していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員のなじみの関係を重視し、職員の移動を最小限にするよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は事業計画の中に組み込まれており、計画通り実施されている。職員には日常的に学ぶことを推奨し、研修などに参加できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム連絡協議会に加入しており、必要な情報は同協議会から入るようになっている。同業者との交流は太白区内のグループホームの職員と交流しストレス解消にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所する前に職員が会いに行ったり、ホームに遊びに来てもらったりして、本人が職員や他の入居者、サービスになじみながら本格的な入居に移っていけるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活の中でできることは一緒にしており、その中で教えられることはたくさんある。お掃除や料理の後片付け、裁縫など協力しながら生活できるよう日常的に支え合う関係をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を中心に入居者個々人の思いや希望を引き出してそれに合わせて支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実態調査の際に本人やその家族の思いや意見を聞き、ホーム以外の関係者の意見も取り入れすべての職員で話し合っている。本人が地域社会の中でその人らしく暮らし続けて行けるように必要な支援を盛り込んだ具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに介護計画の見直しを行い、家族の了解ももっている。状況の変化があるとき現状に即した計画に修正している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望、状況に応じて通院や特別な外泊、外出など柔軟に対応している。地域の高齢者のショートステイなどの実績はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医師や医療機関と良好な関係を築き、本人やその家族が希望する医療機関に受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設から現在まで4件の終末期の看取りを経験している。「看取り介護の指針」「看取り介護の指針にそったインフォームドコンセント」「同意書」を作成し、入所する時点で終末期のことを念頭に置いた話し合いをしている。医療連携体制、医師との関わり、家族の考え方職員の熱意がなければできないことである。4件の見取りを経験し家族に感謝されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を尊重して呼びかけ、本人の承諾を得た上でその人の居室に出入りしている。職員の入居者への言葉掛けや態度、関わり方がゆったりとしており、声の調子も柔らかいである。個人情報の保護はきちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者の生活習慣に配慮して起床、入浴、食事、就寝などの日課的な行為を本人なりの速さで行えるように柔軟に対応している。入居者の一人ひとりの「その日にしたいこと」を把握して入居者が主人公になって暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の力を活かしながら調理、後片付けなどを一緒に行っている。食事には旬のものや新鮮なものを取り入れ、入居者の嗜好を考慮した食事を提供している。職員も一緒に食事を摂り、和やかな雰囲気の中で職員は入居者にさりげなく支援の手を差し伸べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は毎日利用できる。職員は入居者のこれまでの生活習慣や好み、希望を聞いてその人に合った入浴ができるように支援している。入浴を嫌がる人もいるが、職員が言葉かけを工夫して入ってもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員はそれぞれの入居者の生活習慣、希望、持てる力を踏まえ、自分の役割や楽しみごと、気晴らしの機会がつけられるよう手助けし、さらに活気作りや心身の居場所作りに努めている。入居者の主な楽しみごととしては書道、大正琴、犬、小鳥の世話、カルタ、ボール遊び、ゲームなどである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者がなじみの店や場所に出かけられるよう支援している。あやめ祭り、梅見、秋保のつるし雛見学などに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関に鍵を掛けていない。職員はそれぞれの入居者の癖や傾向をつかんで対応をしている。入居者が一人で外出していると地域の方々も見守りや声がけしてホームに連絡してくれたりしている。チャイムやセンサーで入居者を監視してしまうようなことはしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災対策に係るマニュアルを作成し、すべての職員に周知徹底している。消防署員立会いの夜間想定避難訓練も行っている。運営推進会議の議題にかけ地域の協力も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの入居者の嗜好を把握して献立に取り入れ、栄養バランスにも配慮し食事と水分の摂取量を記入している。それぞれの入居者の体重を毎月1回測定している。朝、夕の献立は法人の栄養士が立てている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者のために共用空間を使いやすく設計し、なじみのものや使いやすいもの、季節が感じられるものを置いている。照明や日差しがまぶしかったり、暗かったりしていない。適切に換気され、臭気や空気の上よしみもない。職員の会話のトーンも適切である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の家族に本人のなじみのものを持ってきてくれるよう働きかけている。それぞれの入居者が自分に適した居心地の良い居室を作っている。入居者の主な持ち込み品はダンス、置物、時計、茶碗、仏壇などである。		